

第2 次いのち支える千曲市自殺対策推進計画(概要版)

令和 6 年度～10 年度
(2024) (2028)

基本理念	「誰も自殺に追い込まれることのない千曲市」の実現
数値目標	自殺死亡率*を 11.5 以下とする (現状値:令和 4 年 18.4)

【これまでの取組】(第1次)いのち支える千曲市自殺対策推進計画 (計画期間:平成 31～令和 5 年度)

目標:自殺死亡率 13.0 以下 ※計画策定時:16.2

現状値:(R4) 18.4 (H31～R4 平均値:11.7)

評価:未達成 (H31～R4 平均値は達成)

***自殺死亡率**
人口 10 万人あたりの自殺者数

【自殺の現状～千曲市における自殺者の傾向】

- ・自殺者数は、平成 30 年から令和 2 年まで減少傾向でしたが、令和 3 年から再び増加に転じ、令和 4 年は自殺者数が 11 人となっています。5 年間の平均で比較すると、平成 25 年から平成 29 年の 10.6 人が、平成 30 年から令和 4 年には 7.6 人に減少しています。(図 1-1)
- ・自殺死亡率は、平成 21 年の 30.1 をピークに減少しています。令和元年から令和 3 年までは国や県を下回り、第 1 次計画の目標である 13.0 以下を達成していましたが、令和 4 年に 18.4 と増加に転じています。5 年間の自殺死亡率の平均については、平成 25 年から平成 29 年は 17.1 でしたが、平成 30 年から令和 4 年は 12.6 と減少しています。(図 1-1)
- ・性別では男性の自殺者は 68.4%、女性は 31.6%となっています。
- ・年代別では、男・女ともに、県や国と比較して、70 歳代の自殺死亡率が高くなっています。また、女性は 20 歳未満の自殺死亡率が県や国よりも高くなっています。(図 1-2)
- ・職業別の自殺者割合について見ると、年金・雇用保険者等生活者が 41.7%で、自営業・家族従業者、被雇用者・勤め人は 36.1%となっています。(図 1-3)

＜基本施策＞

【自殺対策を推進する上で欠かせない基盤的な取組】

1 地域・市内におけるネットワークの強化

- 千曲市自殺対策推進会議の開催
- 長野県精神保健福祉センター、長野保健福祉事務所、医療機関等との連携の強化
- 千曲警察署、千曲坂城消防本部等と連携

2 自殺対策を支える人材の育成

- 早期発見・早期対応のためのゲートキーパーの養成
- 自殺対策に関する研修会等の実施

3 市民への啓発と周知

- 市報・ホームページ・SNS等を活用し、相談窓口情報を発信
- 市民向け講演会の開催
- 自殺予防週間・自殺対策強化月間等の広報

4 生きることの促進要因への支援

- 精神保健相談会の実施
- こころ・法律・仕事のなんでも相談会(総合相談会)の開催

5 児童生徒の「SOS の出し方に関する教育」の推進

- 市内中学校にて、「SOS の出し方に関する教育」を実施

＜重点施策＞

【市における自殺の優先対象群】

1 高齢者への対策強化

- 総合相談支援業務を通じた支援
- 地域包括ケアシステムの構築及び地域とのつながりを強化する事業の実施
- 相談窓口の周知

2 勤務・経営者への対策強化

- 商工会、商工会議所、金融機関等と連携したゲートキーパー研修の実施
- 商工部局、商工会、商工会議所、金融機関等に協力を依頼し、相談窓口等の情報を発信

3 生活困窮者への対策強化

- 千曲市生活就労支援センター(まいさば千曲)と連携した相談支援
- 早期発見・早期対応のため、総合相談会を開催し、専門の相談機関につなぐ

低

自殺のリスク

高

＜生きる支援関連施策＞

- 既存の各種研修会等と連携した生きる支援(自殺対策)の推進
- 気づきのための人材育成(ゲートキーパー育成の促進)
- 包括的な生きる支援に関する情報(相談先一覧等)の提供
- 様々な市の事業「生きる支援」を連動し、自殺対策を推進
- あらゆる分野での広報・啓発の強化
- 既存の生きることの包括的な支援を継続

図 1-1 自殺者数と死亡率の推移

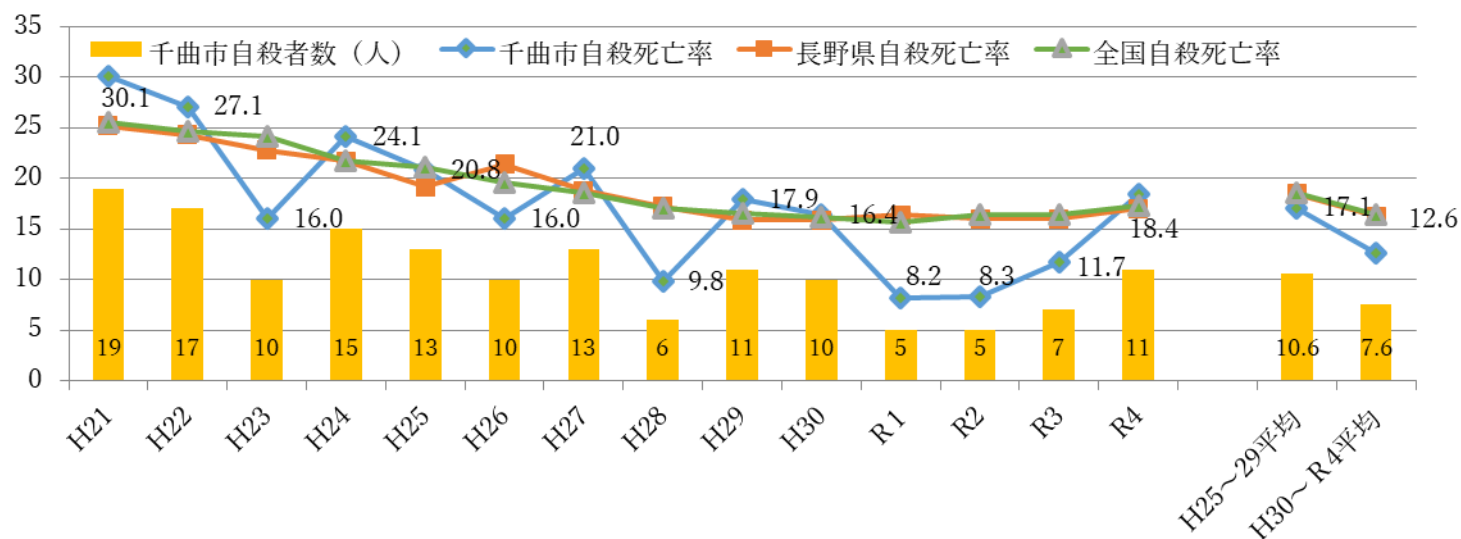


図 1-2 性別×年代別自殺死亡率

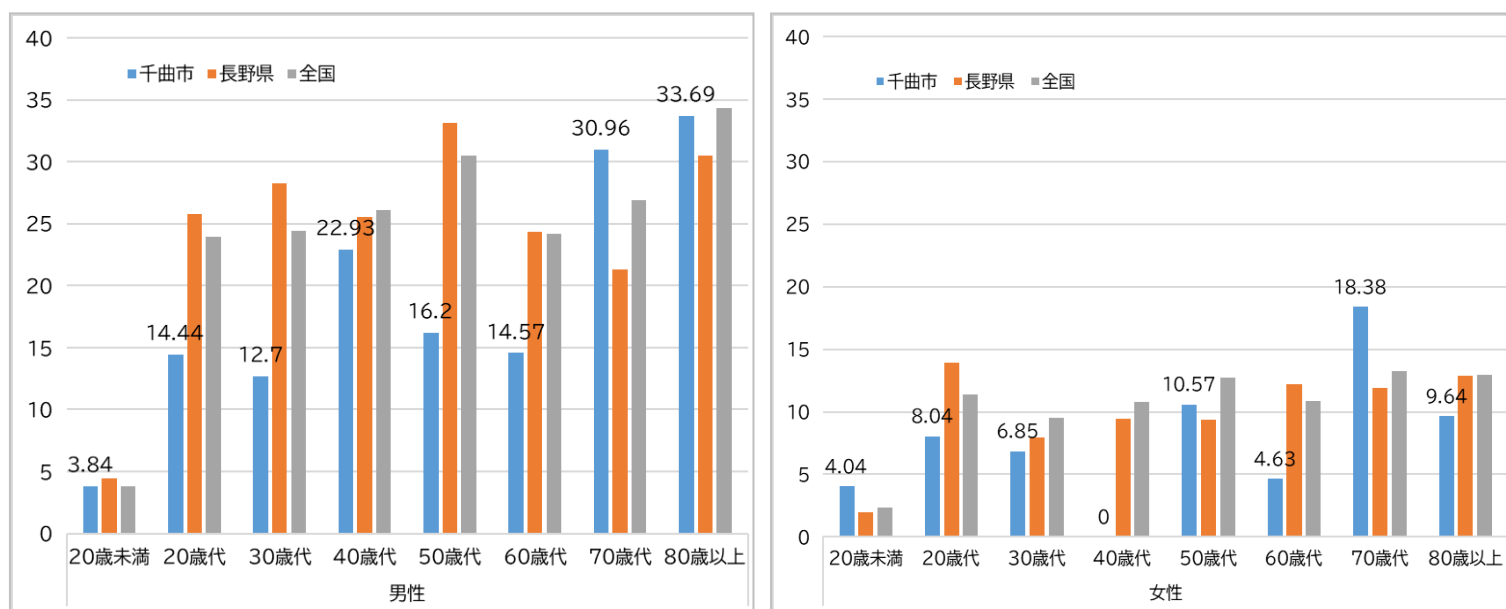


図 1-3 職業別の自殺状況 (平成 29 年～令和 3 年合計)

